

学位記授与式 告辞

宮崎は日ごとに新しい生命の息吹を感じる季節となりました。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。宮崎県立看護大学は、只今、第21期学部卒業生96名、第4期別科助産専攻修了生15名、第19期大学院博士前期課程修了生2名の計113名の方々に、卒業証書、修了証書、学位記を授与いたしました。

本学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げますとともに、皆様のこれまでの努力に深く敬意を表します。

また、本日ご臨席は叶いませんでしたが、皆さんの学びを物心両面で支えてこられたご家族や関係者の方々にも深く感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

さて、皆さんは、この1年、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大した中で、学生生活を送られました。

学業をはじめ課外活動も制限され、大学のキャンパスに来ることすらできない時があり、また、離県についても思うに任せず、就職活動等もご苦労されたことと思います。

幸い、本学では、大事に至ることなく、本日のこの佳き日を迎えることができましたが、これも、皆さんと本学教職員一人一人の努力の結果であり、大変有り難く思います。

今回のパンデミックは、誰もが経験したことの無いものでありました。

皆さんは、感染拡大防止の原則を守りながら、自宅でのオンライン授業で、あるいは来校しても十分な学習環境ではない中で、また、何事にも自粛が求められる日々の暮らしの中で、看護を学ぶことになりました。

しかしながら、皆さんは、その様な状況にあったからこそ、普段何気なく見過ごしていた、たくさんの大切なことに気づかれ、多くのことを学ばれたのではないかと思います。

当たり前であったなにげない家族や友人とのつながりが、自分にとってどれ程かけがえのないものであったかを、改めて認識されるとともに、

同じ時間と空間を共に過ごす仲間と語り合うことで、多くのことを学び、知識を吸収し、自分のものとして身に付け、成長することができていたと感じられたのではないかと思います。

今回のこの感染症の世界的な拡大を目の当たりにしますと、現代の社会と経済の仕組みが、いかに国境を越えて広がっているかについて、実感させられました。

グローバル化は止まることなく進展することと思います。しかし、このグローバル化は私達の生活を便利なものにする一方で、格差を拡大することも知らされました。

また、地球温暖化など地球規模の課題は一層深刻なものとなっており、さらに今回のような新たな感染症の流行や大規模自然災害の発生も懸念されます。

このように先行きが不透明で変化の激しい時代にあつて、皆さんは、これから先も予測困難で、想定外なことに多々遭遇することと思います。

そのような時は、これまでの価値観やものの見方に囚われることなく、さまざまな情報を十分に吟味するとともに、多様な人びととの出会いを大切に、話し合い、その時その場にあつた新しい解決方法を生み出していかなければなりません。

皆さんは、これからの日本の未来を担う若者として、また看護の専門職として、その活躍が大いに期待されています。

この大学で学んだことに自信と誇りをもち、看護や保健の分野で中心的な役割を担う専門職として、また、新しい価値や仕組みを創造する社会の一員として歩んでいかれることを、心より祈念して、私の「はなむけの言葉」といたします。

令和3年3月16日

公立大学法人宮崎県立看護大学 学長 平野かよ子